

第5次上富田町総合計画後期計画（案）・第3期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）に対するパブリックコメントの結果

- 実施期間：令和8年3月4日（水）～令和8年3月17日（火）
- 実施方法：
 - ・町ホームページ、町役場において閲覧
 - ・電子メール、書面等による意見提出
- 意見数：7件（1人）

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
1	I 序論 第1章 後期基本計画の策定にあたって 第2節 計画の位置付け、構成、期間	<p>“やまもの木は雄と雌があり、両方が無いと受粉できず実がなりません”という特徴があるようです。</p> <p>それは上富田町が住民と地域(町)がうまく結実していることに置き換えられると思います。合わせて国が都市計画の指針として出された「ウェルビーイング」にも繋がっていくと思っております。一時的な「ハピネス」ではない、精神的にも身体的にも社会的にも持続可能な上富田の Well(よい)と Being(状態)が◆地域幸福度(Well-Being)の高い偏差値(スコア)となっていると思います。</p> <p>※基本計画（後期）に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包し、一体化する形で策定します。と提起されています。</p> <p>「上富田町都市計画マスタープラン」との整合も図りながら『立地適正化計画』も沿わせていく必要があるのではないのでしょうか。」</p>	<p>「立地適正化計画」については、居住や都市機能の誘導を図る手法のひとつとして認識しております。本町は役場を中心に15分圏内に市町界が位置するコンパクトな街の構造を有しており、現在は国道・町道等の道路網や、上水道普及率99.8%、下水道・農業集落排水といったインフラが適切に整っております。</p> <p>本町としましては、まずはこれら既存インフラの経年劣化への対応や、人口減少を見据えた「個別施設計画」に基づく戦略的な更新・維持管理を最優先事項と考えております。</p> <p>現時点で新たに「立地適正化計画」を策定する予定はございませんが、既存のインフラを次世代へ確実に引き継ぐことが、住民の皆様が安心して暮らせる「持続可能なウェルビーイング」の基盤であると捉えております。今後も社会情勢や近隣自治体の動向を注視しつつ、各計画との整合性を保ちながら、実効性の高い施策に取り組んでまいります。</p>

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
2	I 序論 第2章 策定の背景 第1節 前期基本計画 の振り返り	<p>◆高い「幸福度」と「満足度」</p> <p>全体平均は幸福度・満足度ともに県を上回っております。</p> <p>◆地域幸福度(Well-Being)指標</p> <p>【地域幸福度(カテゴリー別レーダーチャート[主観データ])】偏差値では、全国平均を50とした上富田町の偏差値は「住宅環境」、「地域とのつながり」、など7項目が70を上回っております。</p> <p>地域幸福度(Well-Being)は、「みんなで持続可能なウェルビーイングの状態を目指す」という目標で政府も各種の基本計画にウェルビーイングに関するKPI(成果指標)を設定することにしました。(骨太の方針)</p> <p>基本目標2 教育と文化のまちづくりにおいても、スポーツ振興で住民のウェルビーイングの向上と記載されておりますが、『地域幸福度の向上に進む町』を訴求できればと思います。</p>	<p>本町において、住民一人ひとりが心身ともに健康で、幸せを実感できることが重要であると考えております。スポーツ振興は、健康増進のみならず、多世代交流や生きがいを通じて、御指摘の「地域幸福度」を高めるための重要な施策のひとつです。</p> <p>今回策定する計画案においても、単にスポーツ施設やイベントの充実を図るだけでなく、それらを通じて住民の皆様が「この町に住んでよかった」と感じられる「地域幸福度の向上」を実感できる視点を重視してまいります。</p> <p>今後の施策展開においても、ウェルビーイングの概念を包含しながら、魅力あるまちづくりを推進してまいります。</p>

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
3	II 基本構想 第3章 土地利用構想	<p>▼住宅都市ゾーン</p> <p>今後計画が見込まれる『立地適正化計画』を都市計画区域の中で都市施設誘導と居住誘導を既存のグリーンインフラの自然に囲まれながら、都市型生活を快適に営むことができる地域とするのは早計でしょうか。</p>	<p>自然環境と都市機能が調和した快適な都市型生活は、本町が目指す将来像として極めて重要な視点であると認識しております。</p> <p>ご指摘の「グリーンインフラ（自然環境の持つ多様な機能の活用）」の考え方は、持続可能なまちづくりにおいて有効な手法です。現在、本町では役場周辺を中心に水田の埋め立てと住宅建設が進んでおりますが、これにより、かつて水田が担っていた貯水機能が失われ、豪雨時に雨水が一気に河川へ流れ出すという課題に直面しています。</p> <p>そのため、河川の流下能力を考慮し、今後はできるだけ水田や山林を残して保水力を維持するとともに、住居機能や都市機能の集約化を図ることで、災害に強いまちづくりを推進することが最優先であると考えております。</p> <p>「立地適正化計画」については、現時点での策定予定はございませんが、現在進めている「上富田町都市計画マスタープラン」において、こうした防災の視点と利便性の高い住環境の整備を両立させ、住民の皆様が安心して快適に暮らせる環境づくりに努めてまいります。</p>

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
4	III後期基本計画（令和8～12年度） 第1章 しあわせなまちづくり 分野4 保険・医療の充実	<p>健康づくりについては、自分の健康は・・・、自分でつくと・・・考え、”セルフメディケーション”の「養生」を意識に持ち、健康づくりに関する事業を展開していきます。と自分で健康をつくることを強調しては？</p>	<p>御指摘のとおり、住民の皆様が主体的に健康づくりに取り組むことは、健やかで幸せな暮らしの基盤となります。特に、日々の生活の中で自律的に心身を整える「養生」の考え方は、本町が目指す健康づくりの方向性と合致するものです。</p> <p>御提案を真摯に受け止め、第5次総合計画（後期）において、「健康づくりについては、自分の健康は自分で守り、自分でつくるという意識のもと、定期的な健(検)診と適切な受診をあわせて、自ら体調管理や手当てを行うセルフメディケーションを推進し、生涯にわたる健康づくりを支援する事業を展開しています。」と修正を行います。</p> <p>今後も、住民の皆様が自ら健康をつくる喜びを感じられるような事業展開に努めてまいります。</p>

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
5	III後期基本計画（令和8～12年度） 第3章 魅力あるまちづくり 分野13 適切な土地利用の推進	<p>土地利用は施設の配置でのポジショニングのベースとなります。</p> <p>町は周辺市町からの人の流入もあり人口増加が顕著に進んでおります。都市計画区域内において居住と都市施設の配置の適正化を目指してほしいと思います。</p>	<p>本町においてこれまで人口増加が継続してきたことは、町の活力を向上する上で大きな要素であると認識しております。</p> <p>今後、人口減少が避けられないなかでも、居住環境の質と都市機能の利便性を両立させる「適正な配置」は、これからのまちづくりにおける重要課題のひとつです。</p> <p>本町では、現在進めている「上富田町都市計画マスタープラン」に基づき、無秩序な市街化を抑制し、暮らしやすい都市構造の形成を目指しております。</p> <p>「立地適正化計画」としての策定予定はございませんが、第5次総合計画（後期）の期間内においても、人口動態や生活ニーズの変化を的確に捉え、都市計画マスタープランと整合を図りながら、将来にわたって持続可能な「適正な土地利用」を推進してまいります。</p>

第5次上富田町総合計画後期計画（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
6	III 後期基本計画（令和8～12年度） 第3章 魅力あるまちづくり 分野19 広域行政の推進	<p>施設の立地適正化はローカルの広域連携の観点から周辺市町と近接するダブル配置を回避させ共有化も今後の人口減縮化においても見据えたいと思います。</p>	<p>将来的な人口減少や少子高齢化を見据えた際、公共施設の維持管理コストの抑制とサービスの継続性は、本町のみならず広域的な重要課題であると認識しております。御指摘の「施設のダブル配置の回避」や「相互利用・共有化」という視点は、効率的な行政運営を行う上で極めて有効な方策です。</p> <p>本町では、これまでも近隣自治体と事務の共同処理等を行ってまいりましたが、第5次総合計画（後期）においても、広域連携による公共施設の適正配置や有効活用を検討事項として位置づけております。</p> <p>今後も、広域的な視点から「持続可能な施設配置」の実現に向け、周辺市町との協議・連携を深めてまいります。</p>

第3期上富田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

番号	項目	御意見	御意見に対する町の考え
7	IV 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略 第5章 数値目標と重要業績評価指標（KPI） 基本目標② 人が集まる かみとんだ ～関係人口の創出と転入増加～	<p>関係人口は人の移動の観点から仕事や観光などの「昼間人口」に置き換えられ「対流人口」と捉えられると思っております。人口動態からは『夜間人口』を増やすことが移住・定住に繋がっていくのではと考えます。</p>	<p>御指摘のとおり、仕事や観光などで町を訪れる「対流人口」を活性化させることは、町の魅力を直接体感していただく重要な機会となります。この活発な人の流れを一時的なものに終わらせず、住まいとしての選択（夜間人口の増加）へと繋げていくことが、移住・定住施策の核心であると考えております。</p> <p>第3期総合戦略においては、スポーツによる観光振興や体験プログラムによる観光振興、空き家活用などを通じて、「住んでみたい」と感じていただき、夜間人口へ移行するための受け皿づくりを強化してまいります。</p>